

# 名古屋市の取組

～「多様な生物と生態系に支えられた豊かな暮らしが持続していく都市なごや」のために～

## 1 名古屋の自然

名古屋市は、濃尾平野の東端に位置し、東側の丘陵から、台地、低地と西に向かって低くなっていきます。

東部の丘陵地には、樹林地が分布するとともに、湧水湿地と呼ばれる湿地が点在しています。これらの湿地では、シラタマホシクサなどの東海地方の固有種がみられ、ハッチョウトンボ等希少な生きものが生息しています。かつては、このような湿地が多く存在していましたが、開発が進み減少してきています。また、標高 50 ～ 100m の丘陵地の中で、北東端に位置する東谷山は、市域では最高所にあたり、変化に富んだ地質や地形は、多くの生物を育む貴重な自然です。

一方、中央部は、台地となり市街地が広がっていますが、西部には、平野が広がっており、水田などの農地が残っています。また、名古屋市西部を貫流し、伊勢湾に流れ込む庄内川、新川、日光川の河口には、約 323ha の藤前干潟が広がり、2002 年にラムサール条約に登録されました。



八竜湿地



藤前干潟

## 2 身近な自然の保全・再生

### (1) なごや生物多様性センター

COP10 をきっかけに、より活発になった身近な自然を守り育てる市民の活動を継続・発展していくための拠点として、2011 年 9 月に「なごや生物多様性センター」を設立しました。センターでは、市民協働による生きもの情報の収集・発信や生物調査などを通じて生物多様性の保全に取り組んでいます。



なごや生物多様性センター

### ・なごやの生きもの情報の収集・発信



市内の絶滅のおそれのある野生生物を明らかにし、広く市民に周知するため、絶滅の危険性の程度に応じてランク付けした名古屋市版レッドリストとその解説書であるレッドデータブックを作成しています。

また、調査活動等で得た生きものを標本として収蔵しており、その数は約 14,000 点に及びます。

2020 年 3 月にはなごやの生きもの情報ポータルサイト「なごや生きものライブラリー」を開設し、調査活動等で得た生きもの情報を市民に分かりやすく発信しています。

### ・市民との協働による生きもの調査

市民団体や学識経験者、専門家、名古屋市で構成される「なごや生物多様性保全活動協議会」をはじめ、市民や専門家等と協働して、生物調査や外来種防除等の保全活動を行っています。

ほぼ毎年行っている池干しでは、生きものの種類や数を調査するとともに、外来種を取り除くことにより、生態系の回復を図りました。これまで市内16の池で実施し、計4,000人以上の方の参加がありました。



池干し



市民協働による調査

### ・連携・交流とネットワークづくり

研究機関・大学などとの相互協力や市民団体への活動支援、交流の場づくりなどを行っています。

また、名古屋市で活動する多様な団体が集まり日頃の取組を発信する「なごや生物多様性センターまつり」と中学・高校の生物部等の取組発表の場として「生物多様性ユースひろば」を開催し、様々な主体の交流を促進しています。



生物多様性センターまつり

## (2) 希少種の保全活動

東山動植物園では、絶滅危惧種であるニホンメダカの種の保存とメダカを活用した環境教育を目的として、名古屋メダカ（ニホンメダカ）の里親プロジェクトを実施しています。これは、毎年6月から10月にかけてニホンメダカを市内在住の小中学生や市内に所在のある小中学校に貸与し繁殖させてもらおうというもので、動植物園において殖やしたメダカを放流する際には、飼育・繁殖過程での気づきを発表してもらっています。



名古屋メダカ里親プロジェクト 飼育講習会



名古屋メダカ

## (3) 藤前干潟の保全活用

藤前干潟は、一部がごみ処分場として埋め立てられる予定でしたが、市民運動と行政の最終判断により計画は中止され、干潟の保全が決まりました。

現在、環境省やNPO等と連携し、「藤前干潟ふれあい事業」として、藤前干潟の保全や野鳥・干潟の底生生物の観察などの様々なプログラムを通年で実施しています。また、オーストラリア・ジロング市と湿地提携を結ぶことにより人的交流事業を行っており、参加した中学生が渡り鳥のルートでつながる提携湿地の保全の取組を学ぶことを通して、環境保全への理解を深め、自ら環境保全活動に取り組むことができる人材の育成を図っています。



ジロング市との人的交流事業

# 名古屋市の取組

～「多様な生物と生態系に支えられた豊かな暮らしが持続していく都市なごや」のために～

## 3 生活スタイルの転換

### (1) フェアトレードの推進

2015年に名古屋市は国内2番目の「フェアトレードタウン」に認定されました。フェアトレードは、開発途上国の産品を適正な価格で継続的に購入することで、生産者の生活改善と自立を目指すもので、その理念は生物多様性を含む環境問題をはじめとした地球規模の課題解決に貢献します。名古屋市では、「地球とのフェアトレード」を合言葉に、地産地消・地域活性化など、地域に、そして地球に対してフェアであることも目指し、まちぐるみで取組を行っています。

フェアトレードの理念を普及するため、市民団体・企業等との協働により、様々なイベントを実施しているほか、名古屋のフェアトレードタウン活動を盛り上げる「フェアトレードタウンなごや応援ロゴマーク」の普及や市内の小学校給食にフェアトレード認証製品を使用する等の取組を行っています。



フェアトレードコーヒーガーデン



フェアトレードタウン認定証  
国際フェアトレードタウンなごや宣言



FAIR TRADE TOWN  
NAGOYA

フェアトレードタウンなごや  
応援ロゴマーク

### (2) なごやグリーンウェイブ

グリーンウェイブは、生物多様性条約事務局の呼びかけにより始まった活動で、「国際生物多様性の日」である5月22日の午前10時に世界中で植樹などを行うことにより、この活動が地球上の東から西へ波のように広がっていく様子を、「緑の波（グリーンウェイブ）」と表現しています。名古屋市は2018年にグリーンウェイブオフィシャルパートナーに任命され、市民・市民団体・事業者等との協働により、市内一斉植樹を実施するなど、市内のグリーンウェイブ活動を促進しています。



市内一斉植樹



グリーンウェイブ  
ナナちゃん人形

### (3) 環境デーなごや

環境デーなごやは2000年から続く環境イベントであり、生物多様性などの環境問題について市民・事業者・行政がともに理解や関心を深め、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動へとつなげるきっかけづくりの場を提供しています。



環境デーなごや

市内各地で行われる地域行事では、市内で活動する市民団体の方の協力を得て、自然の中での様々な体験を通して生物多様性について学ぶ講座等を実施しています。

久屋大通公園で行われる中央行事では、環境問題について取り組む団体による日頃の環境活動の成果の発信やさまざまな企画を実施しています。

## 4 人づくり・人の輪づくり

### なごや環境大学

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が立場や分野をこえて協働で運営し、知識や経験、問題意識を持ち寄って学びあうプラットフォームです。

「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」「人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「ともに育つ（共育）」ことを目指し、様々な講座等を実施しています。



森イキ！デザインプロジェクト  
なごやサテライトプログラム



愛岐の里山たいけん隊

## 5 流域圏の連携・交流

### (1) 名古屋城本丸御殿復元関連事業「名古屋市民の森づくり」

木曾・裏木曾地方は、かつて尾張徳川藩の領地で、木曾ヒノキなど貴重な森林資源の宝庫でした。しかし城下町建設に伴う大量伐採が続いた結果、森林資源の枯渇が深刻化したことから、森林資源保護のため、入山制限やヒノキなど木曾五木の伐採禁止など、厳しい取り締まりが行われました。こうして木曾の人々によって守られてきた森林は次第に再生し、現在は樹齢300年以上の木が数多く育っています。

名古屋城本丸御殿の復元には、貴重な木曾ヒノキを大量に使用するため、豊かな自然が未来へと続くよう、また木曾に住む人たちとの交流を深めるため、長野県木曾郡木曾町木曾駒山麓と岐阜県中津川市加子母村において植樹を行う「名古屋市民の森づくり」事業を2008年から毎年実施しました。

2017年に植樹の目標本数1万本（11年間で累計11,390本）が達成され、2018年6月に本丸御殿が完成公開を迎えたことから、2019年からは、育樹や森についての学習を中心に本事業を実施しています。

2019年には名古屋城において、「名古屋城学びの場 名古屋城と木のはなし～城下町の礎となった森と山守～」が行われ、木材の由来やヒノキの天然林と人工林の違いなどを説明する講座体験プログラムも行われました。



名古屋城本丸御殿



市民の森づくり

### (2) 木曾三川流域自治体連携会議～水でつながる命～

COP10を契機として、2011年に「水でつながる命」をテーマとして木曾三川流域自治体連携会議を設立しました。2020年4月時点で4県下46自治体が参加し、市町村長等が他の流域自治体を直接訪問し、意見交換等を行う木曾三川流域自治体サミットや上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談の場を提供する商談会、流域住民が水源地を訪れ、植樹などの水源地保全活動を行う事業などを実施することで、『自治体相互の連携強化』、『持続可能な地域経済の振興』、『水環境保全に対する住民参加の促進』を図っています。



木曾三川流域自治サミット



木曾三川流域連携事業  
のキャラクター  
かわたん